

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 石川 なつの

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成 29 年 1 月 22 日から 2 月 11 日の 21 日間、フィリピンセブ島にある CIJ Academy にて英語を学ばせて頂きましたので、それを報告します。滞在中は、学校が所持しているホテルにて、スクールメイトとルームシェアをしながら英語力とコミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、異文化を知ることによって自身の視野を広げることを目標としました

2. 語学学校

私がこの学校を選んだ理由としては、セブ島の中でも立地が良く、比較的治安がいいことに加えてホテルと教室が同じ敷地内にあり、24 時間ガードマンが在住しているので他の学校に比べて安全であったためです。

フィリピンでの語学留学の特徴としては、他の国と違いマンツーマンの授業が多く、個人にあった授業が選択できるという点があげられます。実際に CIJ でも 4～6 コマのマンツーマンの授業を選択でき、授業内容も **writing**、**reading**、**speaking**、**listening**、**grammar vocabulary** から先生との相談によって決めることができました。

私は発言の機会を多く持ちたかったので、ネイティブ講師のグループ発音クラス以外の全ての授業をマンツーマンにしてもらい、3 週間という短い期間であったために、授業内容も **speaking** 4 コマ、**writing**、**reading** が 1 コマずつのスピーキングに重きを置いた授業プランを組んで頂きました。

私の場合は、聞き取ることは出来るけど言いたいことがすぐ言えない、なんと表現したらいいか分からないというのが悩みだったのですが、毎日 7 コマ先生と会話することにより、最終週には最初の頃に比べてレスポンスも速くなり、英語での冗談も冗談で返せるようになりました。

先生方はやはりネイティブスピーカーではない為、聞き取れない言葉も多くありましたが、発音のクセにも慣れ、ベテランの先生になると質問に対しても分かりやすい例文を使って説明してくれるので、日本語で英語を勉強するよりもより深い知識が得られたように感じました。



写真 1：先生たち

3. 滞在先について

前述したように、私は今回ホームステイをせず、学校が教室と同じ敷地内に所有しているホテルに滞在しました。CIJ Academy は生徒の安全の為、全生徒がそのホテルに泊まることを義務付けており、ホテルの2フロアを貸し切り状態にしていたためホテルというよりは寮での生活の様なものでした。

私のバッチメイトはほとんど韓国人と台湾人だったため、ラウンジでバッチメイトと英語での会話を楽しんだり、ルームメイトの韓国人と部屋でテレビを観ながらおしゃべりをして交流を深めたりするなど、英語を話す機会に恵まれていたと思います。また、それを通じて他の国の文化や流行り、日本との共通点など様々なことを学ぶことができたのでこの様な交流を沢山持つ環境にあったことに感謝しています。



写真 2：バッチメイト

4. セブ島での生活について

セブ島での生活は、平日は朝から夕方まで授業があり、その後は近所のレストランやマッサージショップに行ったり、またはホテル内の自習室で授業の予習復習をしたりして過ごしていました。

セブ島はまだまだ発展途上国ではありますが、海に囲まれた島国でリゾート地でもあるので、週末は友達とアイランドホッピングに出かけたり海に行ったりと、セブ島の文化に触れる体験を沢山することが出来ました。

セブ島は物価が日本よりも安いので、日本では体験できないことも手軽に体験でき、とても充実した週末を過ごせたと思います。特にジンベイザメと一緒に泳いだ経験は一生忘れることはないと思います。



写真 3 : Oslob でのアイランドホッピング



写真 4 : スミロン島の海

5. おわりに

今回、国際交流基金事業の助成によりフィリピンのセブ島に語学留学をすることができ、日本ではできない様々な体験をすることができました。

私にとって 1 人で海外へ行き、言語や文化の違う環境で他国の人と生活するというのは初めての経験でした。

やはり始めは言いたいことはあってもどう英語にしていいいかわからず、自分の意見を言えない場面も多々ありました。しかし、今回の目標でもあった英語を使ったコミュニケーション能力の向上のために、正確に話せなくても言いたいことは言わなければならないと思ひ話し

ているうちに、スラスラ言葉が出てくる様になりました。

日本人は自分の英語が正解か分からないから、恥ずかしがって黙っていることが多いとよく言われていますが、私が行った学校で他の日本人学生を見ているだけでもそれを感じました。文法がめちゃくちゃでも通じればいいと思っているわけではありませんが、伝え方が分からないからと言って黙っているよりは、拙い英語でも恥ずかしがらずに伝える努力をすることが大切なのだと思えたことが今回の一番の収穫だったと思います。

また、日本の協調性を重んじて相手に合わせる文化とは違い、海外の人達は物事に対して自分の意見をしっかり持っていて、討論の場面などでも相手の反発を恐れずに、自分の意見を言えるところが凄いと感じました。授業中に先生と意見の食い違いが生じた時、「私はあなたの意見を否定したいのではない、自分の意見とあなたの意見を戦わせたいんだ。」と言われた時、それだけ自分の意見に自信を持てると言うことがカッコいいなと思い、自分の意見の弱さが悔しかったことを覚えています。



写真 5：お別れのとき

今回の語学留学を経て、海外の友達もでき、コミュニケーションツールとして英語をもっと勉強したいと思えたこともそうですが、その他にも、文化や考え方の面でも学ぶことは本当に多かったように思います。

このような機会を頂いたことに感謝し、この経験を将来に活かせる様、より一層視野を広げるとともに勉学に邁進して行きたいと思います。